

中央高等予備校に通った 内閣総理大臣 岸 信介



60年安保時の首相で、退陣後も長く政界に君臨し「昭和の妖怪」と呼ばれた^{きしのぶすけ}岸信介。その彼が郷里の山口中学を卒業後、上京して高等学校受験準備のために通ったのが中央高等予備校だった。

岸が著した『我が青春 生い立ちの記／思い出の記』（1983年刊）によると、本郷森川町にあった桜館に下宿し、そこから予備校通いをしたらしいが、田舎出の受験生にとって当時最も賑やかであった浅草や上野などの盛り場は大変魅力的であつたらしく、勉強そっちのけでしばしば映画や芝居を見に行ったという。

岸はまた、予備校は予備校で雑然として規律も節制もなく、自主休講、遅参早退も自由であったから、彼自身あまり勉強に身が入らず「^{きゅう}笈を負うて家郷を出た時の決心も何処へやら」といった真情を吐露している。

この後、岸は第一高等学校から東京帝国大学に進学し猛勉強の日々を送ることになるのだが、その前のほんの一時人並みに青春を謳歌していたのである。